

1 研究主題

(令和3～5年度3か年継続研究3年次)

未来を拓き よりよい社会を創り 生き抜く力の育成を目指す学校教育の推進
～全ての児童生徒に確かな学びの力を身に付けさせるチーム胆振としての学校改善～

2 研究推進の概要

- (1) 市町研修部長研修会の開催
- (2) 研修部報「いぶり」の発行
- (3) 胆振管内校長会研究大会の開催、道小・道中研究大会、全連小・全日中研究大会への参加
- (4) 第8期研究計画を踏まえた各市町による研究の推進

＜令和5年度 胆振管内各市町校長会の研究主題＞

- 豊浦町校長会 学校経営ビジョンの実現と活力ある組織づくりにおける校長の在り方
～これからの学校運営を担う教職員の育成を通して～
- 洞爺湖町校長会 令和の日本型学校教育実現に向けた校長のリーダーシップによる学校改善
- 壮瞥町校長会 ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を切り拓く子どもを育む学校経営
の推進～小中一貫教育と地域とともにある学校づくりを目指して～
- 白老町校長会 活動方針に基づく具体的取組を通し、白老町学校教育の充実・発展を目指
し、職能を高める研究と実践を積み重ね教育条件の整備と改善を図る
- 安平町校長会 安平町の教育の現状を踏まえ、未来を心豊かにたくましく生きる児童・生
徒の育成を図る創意と活力に溢れた学校経営の創造
- 厚真町校長会 「自立して社会で生きていく基礎を育み、新しい時代を担える子どもの育
成」の具現化を進める学校教育の推進
- むかわ町校長会 ①ふるさと「むかわ」のよさを知り、新しい「むかわ」を築く児童生徒を育
てる教育の推進
②「学ぶ意欲」と「優しさ」にあふれ、「元気いっぱい」に活動する児童生
徒を育てる教育の推進
- 室蘭市校長会 新たな時代を切り拓き 共に支え合い 生き抜く力の育成を目指す学校教育
の推進 ～全ての児童生徒に確かな学びの力を身に付けさせるチーム室蘭
としての学校改善～
- 苫小牧市小学校長会 苫小牧市の未来を切り拓く小学校教育の創造
～校長としての職能・資質向上を目指して～
- 苫小牧中学校長会 未来を拓き、確かな学びの力を育てる中学校教育の推進
- 登別市校長会 自ら心豊かに生きる人間の育成を目指す学校経営
- 伊達市校長会 地域に根ざし、地域と共にある創意と活力に満ちた学校経営の推進

3 研究の成果と課題

- (1) 第8期研究計画3年次のまとめの年度にあたり、4年ぶりに管内教育研究大会を会同型で開催し、分科会・分散会や講演会を通して校長の職能向上を図ることができた。
- (2) 各市町校長会の研究計画及び研究のまとめを集約し、交流を推進することができた。
- (3) 年3回の部報「いぶり」を発行し、研究活動等について周知を図ることができた。
- (4) 9期研究計画を推進し、管内校長会教育研究大会において、より充実した分科会・分散会が開催できるように改善を図る。
- (5) 令和7年度の道中研究大会胆振室蘭大会に向けて実行委員会と連携を図り、管内校長会としての支援体制を整備し、提言発表に向けた取組を支援する。

1 研究主題

令和6～9年度4か年継続研究1年次)

未来を拓き よりよい社会を創り 生き抜く力の育成を目指す学校教育の推進
～ふるさとへの誇りと確かな学びの力を育むチーム胆振としての学校改善～

2 研究主題設定の趣旨

現在は予測が困難な時代であり、こうした時代を、子どもたちが豊かに健やかに生き抜いていくためには、初めて出会う様々な問題にも、主体的に挑戦し、他者と協働して知恵を出し合い、解決したり、新たな価値を創造したりする力を育成していかなければならない。また、子どもたちが、育ったふるさとの自然・歴史・文化を愛し、身近な社会に誇りと愛着をもち、地域社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていこうという思いをもつことは、グローバル化する社会的な課題を解決し未来を切り開いていくための大きな原動力となる。

各学校においては、求められる資質・能力を子どもたちに育むために、新学習指導要領を着実に実施し、目指すべき「令和の日本型教育」の姿である、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善や1人1台端末の利活用の促進を図ることが喫緊の課題である。また、家庭・地域との連携・協働により、人との関わりを通して、ふるさと教育やキャリア教育を推進するなど、社会に開かれた教育課程の実現に向けて幅広い視野で教育活動を創造していかなければならない。さらに、いじめや不登校の問題など、重要課題が山積する中、その解決に向けてチームとしての学校や働き方改革を推進し、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築や後継者の育成を図ることは、我々校長の重要な責務である。

これらのことを踏まえると、第9期の研究も、第8期から引き続き、校長会として組織的に取り組むことが求められる。新たな取組や大きな改善に向け、様々な情報や状況の分析が必要であり、各校の校長が独自に取り組むのではなく、校長会として英知を結集させ、大きな流れを創る中で自校の特色を出していくことが、効果的、かつ、効率的な学校改善につながっていく。

具体的な研究の進め方として、3領域6視点という大きな括りでの研究推進が最も効果的であると考えている。その際、各市町校長会や胆振管内校長会が足並みをそろえるべき取組やその基盤としての義務教育9年間を見据えた小中連携の充実に向けた取組に視点を置いた研究推進を継続し、これまで同様、全連小・道小や全日中・道中との関連を図りながら、グローバルな視点として全国的な動向や情勢を押さえつつ、この胆振の実態を踏まえた課題解決につながるローカルな研究を進める。

3 研究内容

(1) 「教育課程」を活かす学校経営

視点1 各種調査を活かした学校経営（学力・道徳・体力など）

視点2 特色ある教育課程を編成・実施する学校経営（小中連携・地域素材など）

(2) 「人・組織」を活かす学校経営

視点1 組織が機能する学校経営（体制・資質向上・働き方改革など）

視点2 各種施策を踏まえた学校経営（方針・事業・働き方改革など）

(3) 「家庭・地域の教育力」を活かす学校経営

視点1 家庭・地域と連携した学校経営（学校運営協議会・PTA活動など）

視点2 評価を活かした学校経営（学校評価・学校関係者評価など）

4 研究推進計画

- (1) 第9期研究計画4年計画の初年次として、第8期の研究の成果と課題を踏まえながら、その改善策の検討と新たな課題の明確化に努める。
- (2) 第23回胆振管内校長会教育研究大会を会員各位の理解と協力を得ながら開催し、第9期研究を進めるとともに、その成果を各校の学校経営に反映させていく。
- (3) 令和7年度の道中胆振室蘭大会の開催に向けて、実行委員会を中心に胆振管内校長会が一丸となって準備・運営にあたる。（令和7年度胆振管内教育研究大会は開催しない）
- (4) 全連小や道小、全日中や道中、各市町校長会との連携を密にし、一貫性のある教育研究の推進を図るとともに、研究成果の還流・交流に努める。

5 研究組織

- (1) 各市町の研修部長相互の連携と協働を生かし、活動・事業推進計画に基づく業務を推進する。
- (2) 研修部報「いぶり」を適時適切に発行するなどして、胆振管内校長会教育研究大会の円滑な推進と内容の充実を努める。